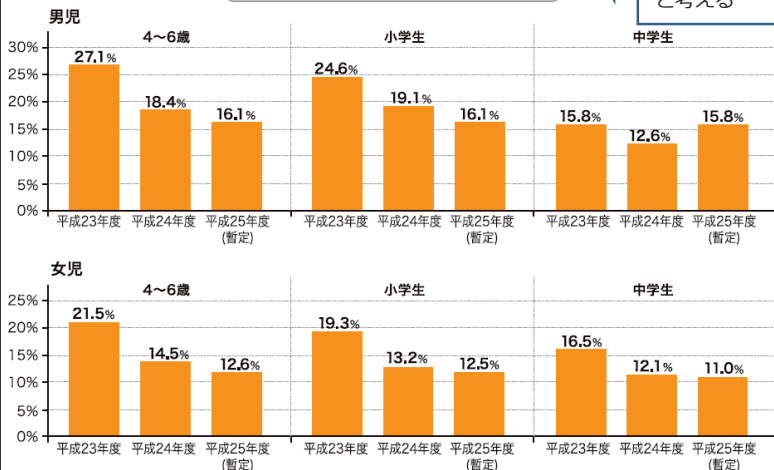


【子どものこころの健康度】

測定尺度：SDQ※
16点以上で支援が必要と考える

支援が必要と考えられる子どもの割合（男女別）



第11、15、17回福島県「県民健康管理調査」検討委員会資料より作成

被災直後の調査に比べると、支援が必要と考えられる子どもの割合は減ってきています。しかし、被災していない地域の子どもの調査結果と比較すると、どの年齢区分の子どももまだ高い数値を示しており、依然として支援を必要とする子どもたちがたくさんいます。

なお、男女別にみると男子の方が数値が高い傾向にあります。これは被災地ではない地域を対象とした他の調査でも同じような傾向が報告されています。

※：SDQ = 子どものこころの健康状態を測る “ものさし”

子どもの情緒と行動に関する 25 項目（例：「他人の気持ちをよく気づかう」、「おちつきがなく、長い間じっとしてられない」など）について、「それぞれ過去半年間にどれくらい当てはまるかを回答していただきました。この項目は 4 ～ 15 歳を対象に実施。この項目によって専門的な支援が必要かどうかを判定しました。

本資料への収録日：2015 年 3 月 31 日

関連 Q&A

・ 6 章 QA76 調査票による調査で、こころの悩みを見つけることが本当にできるのですか